

「春にならん冬は、これまでいっぺんもなかったんや。
ここでへこたれたりせえへんでエ」

「五十肩」より

幼き日の思い出や、大学時代、サラリーマン時代…

宮本輝氏自らの青春を、美しく、

時にユーモラスに綴った、短篇エッセイ集。

二十歳の火影

— はたちのほかげ —

テニス部の草創のメンバーのうち、それでも八人もが

四年間を頑張り抜けたのは、きっと

「第一期生」であったからかも知れない。

「恥かしい時代」より

この年の暮、突然、小説家になろうと決心する。

この突然という言葉に、まったく偽りなし。

ある日、電撃的にそんな夢に取りつかれたのである。

「二十代の履歴書」より

もっとうまい方法があった筈なのに、

十八歳の私は打ちひしがれて、

ほかにどうしていいのか判らなかつたのである。

「途中下車」より

「ずっと、歩いて行こか？」

(略)

「うん、終りまで行ってみよか」

「難い道」より



1980年 講談社

〈収録作品〉

I

- 川
- 夜空の赤い灯
- 曽根崎警察署前の露路
- 私と高山
- 能登の虹
- 拜啓アラビヤ馬
- ゴドルフィン様
- 夕刊とたこ焼き
- 正月の、三つの音
- 雪とれんげ畑

II

- 青春の始まりの日
- 押し入れの中
- 正月の静寂
- 土曜日の遠路
- 過ぎし日の二日酔い
- 途中下車
- 恥かしい時代
- 二十歳の火影
- 地球の数
- スパルタカスのテーマ
- 二十代の履歴書

III

- 「道頓堀川」のこと
- 蜷蝸
- 雨やどり
- 不思議な火花
- 海そいの道
- 手紙
- 蟹になりそこねる
- 五十肩

IV

- 越前海岸
- 「泥の河」の周辺
- 難い道
- 文学のテーマとは、と問われて
- 宿命という名の物語
- 闘病記
- 母と子
- 花火のあと
- 快食、快眠、快便
- うまく行かなかつたら

宮本輝のエッセイ集

命の器

1983年 講談社

本をつんだ小舟

1993年 文芸春秋

生きものたちの部屋

1995年 新潮社

血の騒ぎを聴け

2001年 新潮社

いのちの姿

2004年 集英社

発行エッセイ集

・異国の窓から (1988年、光文社)

・ひとたびはボブラに臥す (1997-2009年、講談社、全6巻)